

○小學校と幼稚園

(堀) 今の様にやつて居つて、何うしても保育項目に何回も云ふ時間配當をしなければならぬのですか。

(渡部) いゝえ、構ひませぬ。

(堀) さうすれば其處で何うして貴女そんなに悩みますか。悩む理由がない様にも思ふのです。

(渡部) 小學校と同じ様な教授細目を作れ、云ふ事を何年前からか言はれて居ます。

(堀) それは保育項目に就て、小學校の教科の様に、教材を決めろ、云ふ事を注文して居るのですか。

(渡部) まあさうじやないかと思ふのです。尤も幼稚園としては小學校で教授細目を作る程、必要に迫られては居ないものですから、私共がするするやつて居るのでその儘、するゝになつて居りますが。

(堀) するゝになつて居つてするゝでよければ。

(渡部) 悩みもなければいゝのですけれど。

(堀) 今日は小學校でわざゝさう云ふ風にしようとし

て居る所が多いのですが。

(渡部) でも……。

(堀) さうすれば何か何回数。談話の回数が二回、一週二回あるから、其處で回数を決めておいて材料を決めるか。それから白根さんの所の様に大體材料を決めて、貴女の所もさうだと思ふが、製作作業を子供の遊びを中心にして、材料を決めておいて、そしてそれをやらせ、自然の間にそれは談話も出て来るであらうし、觀察も出て来るであらうし、唱歌遊戯も出て来る。唱歌遊戯は一寸必然的に出た場合が多いかも知れませぬが。さう云ふ事の、それが先刻私が白根さんに質問したところで、回数を決めておいて材料を決めて立場も、材料を決めておいて自然に回数が出て来る云ふのも同じだらう。小學校の教授細目は回数を決めておいて今度内容を、材料を作る言つて居る。新しいやり方では、さう云ふ教材を決めておき、時間配當はしておかない。子供の生活に則した近い材料をもつて来てそしてそれをやらして居る間に必然的に讀方にもなれば、圖書にもなる、理科にもなる、云ふ具合で、出来て居る學課を

教授するのではなく、寧ろ子供の生活作業を中心として自然に何か教課をやらして行く、云ふ事なんです。此處の小學校なんかでやつて居るのは月々の、まあ子供に適した行事を中心として材料を決めておいて、それでその間から色の教科が出て来る様にする。それですから多くの場合に於て先づ事實を直観する。直観してその得た觀念を今度は發表する云ふ事になるから、言語發表にもなり、文字の發表にもなり、繪の發表にもなり、立體的に手工の様な發表にもなる。勿論その間には多くの取扱ひもあるが、根本は直観を作業でやる云ふ事になります。するに、地方の人なき、それじや修身の時間を一週二時間なさらないのですか質問します。其處の所が大切な點だと思ふ。つまり今迄の小學校で教科を配當する様に、課程表を決めて一週何時間云ふ事を決めて、詰り指導する談話、それから指導する觀察、指導する手技、さうして、さうしてその材料を決めて行く行き方、先づ材料から自然に出て来る云ふ立場、それから一日の中で設定的保育の時間は二回なり一回にやつてその他は所謂自由遊び云ふ事に

してゆくの、其處で大きな問題が分れて来る。先程の話もさう云ふ問題だと思ふ。

(渡部) 時間を決めてしないで生活を中心として、製作的なものを先きに決めて、初めの中は一週間で纏める材料、段々に進んで二週間三週間、いくら發展してもいゝ様に材料を探つて進んで行き度いのですけれども、それが中々旨く行かないのです。

(倉橋) 今日の座談會は渡部さんを中心に悩みを聞くの會になりますか。(笑聲)

(渡部) やめます。(笑聲)

○東京市で研究されたもの

(倉橋) 東京市では斯う云ふ事に於て御研究になり御調査になり、御決定になり御實驗になつて居るに聞いて居ますが、それをです。一つの實行されて居る實例として何方かに承はる事が出来たらいいと思ひます。

(堀) それが是非必要だ。

(倉橋) 柴田さんに御願ひしませうか。